

保健室のルーツとしての「摂生室」についての一考察

— 学校建築史にみる「養護室」「摂生室」をてがかりに —

山 梨 八重子*

A study on the *setsuseishitsu* (health care room) as the origin of the school health office

Yaeko YAMANASHI

(Received October 28, 2013)

In documents on the history of school architecture, I discovered the existence of the *setsuseishitsu* (health care room), which would likely be the origin of the school health office. A *setsuseishitsu* was established for the purpose of health care in 1869 at the school that was the forerunner of Tokyo University. One such room was also established at a kindergarten in Osaka in 1901. In the latter case it was known by this name until 1952. As a result of having examined a wide variety of documents concerning the health care room, I was able to identify the possibility that the health care room was the origin of today's health office. Furthermore, I was able to confirm the fact that there was a room called the *yogo shitsu* at the elementary school of Yamanashi prefecture, as noted in documents on the history of school architecture. As a result of having considered process and background of the establishment of the room, I am able to conclude that the setting up of the room was closely related to a series of measures on school hygiene at that time. In addition, I believe that the name derives from *yogo*—an educational theory of this time period.

Key words : *yogo-shitsu*, *setsuseishitsu*, school health office

1. はじめに

保健室は今や学校には必ず存在する部屋で、昭和22年学校教育法第1条にその設置が義務づけられ、その後平成21年学校保健安全法第7条に「学校には、健康診断、健康相談、保健指導、救急処置その他の保健に関する措置を行うため、保健室を設けるものとする。」とその目的が規定された。しかしこの名称を歴史的に紐解けば、医務室、衛生室、静養室などいくつかの名称が混在しており、戦後学校教育法で「保健室」とその名称は統一化されたものの、医務室や衛生室という呼称はしばらく続いた。しかし今やほとんどの学校で保健室と呼ばれるに至り、さらにその保健室という名称は、それが学校教育で果たす役割や機能を含めて広く定着しているといつて過言ではない。

学校建築史の文献に1875年（明治8）に建設された小学校の設計図に「養護室」という名称があると

いう先行研究¹から、筆者はこれに注目した。時代的にみると、明治に日本の教育学の著書に教育の一分野として「養護」という言葉が登場したのは、1893年（明治26）²であり、もし先の資料が事実であればそれよりも早い時期となる。

本研究ではこの「養護室」という名称に注目し、学校建築史の資料を手がかりに、保健室のルーツの検討を試みる。

2. 保健室の登場

「保健室」という名称は、1947年（昭和22）の学校教育法制定に伴い定められた同法施行規則の第一条にある。そこに「学校には、その学校の目的を実現するために必要な校地、校舎、校具、運動場、図書館又は図書室、保健室その他の設備を設けなければならない。」と明記される。

『学校保健百年史』³によれば、保健室は医務室、衛生室、治療室、休養室、学校診察室そして養護室と呼ばれ存在していた。これらの部屋が登場するその

* 熊本大学教育学部

背景に、学生生徒身体検査規程の制定（1897、明治30）と学校医制度の導入（1898年明治31）がある。前者に関わっては、強制力はないものの身体検査をする「検査室」の必要性が通達されたこと、後者については、校医による学校での身体検査、学校衛生の見地から環境の点検整備、また伝染病の予防対策や傷病の対応が明記され、それにともなって特別な部屋の設置が求められていた。さらに当時トラコーマの流行が全国的に拡大する中、その洗眼治療の場として「医務室」「治療室」が必要となったことなどがあげられ、その後疾病治療や歯科治療という医療行為を医師が行う「学校診察室」という診察治療に特化した場所も生まれた⁴。しかし現実には身体検査の場として特別に「検査室」なる部屋の設置が拡大したとはいいがたい。というのも後述するように、当時の学校建築規定には検査室はなかった⁵からである。

保健室の該当するような部屋は、トラコーマ対策の洗眼のために学校に学校看護婦が派遣され、その職務遂行の場として設置が広がっていく。杉浦守邦によれば⁶、その後学校看護婦制度が本格化するにともない、当時アメリカにあったHealth roomから「衛生室」と名付けられたという。

杉浦がとらえるように、保健室は「治療のための場所でありその機能が求められたが、次第に身体検査施設、救急処置施設、予防処置施設、衛生訓練施設として総合的な保健管理施設へと発展」⁷し、学校教育法及びその後の学校保健法の制定を契機に、「保健室」という名称は、戦後一気に広がり定着していったといえる。

3. 学校建築史にみる保健室の変遷

3.1. これまでの歴史研究の知見

—学校保健百年史から—

『学校保健百年史』及び杉浦によれば、最初の「治療室」と称する部屋が設置されたのは、1905年（明治38）トラコーマ対策の洗眼のために学校看護婦が最初に派遣された岐阜笠松小学校と竹ヶ鼻小学校である。それから4年後の1909年（明治42）学校看護婦が派遣された岐阜京町小学校には「医務室」が登場する⁸。さらに、1908年（明治41）に佐賀県東松浦郡巖木小学校の改築の際、医務室と「養護室」それぞれ5坪の部屋を設けたと書かれている。巖木小学校を改築するその折、当時全国の都道府県に問い合わせたところ、医務室と「養護室」を設置した学校の報告がなかったという⁹。

ここで注目したいのは、「養護室」という名称である。そもそも「養護」という言葉は、明治20年代の欧米教育学の紹介にともない教育の一分野や教育方

法の一つとして登場するものの、部屋の名称として使われたことが確認できているのは、これまでにはこの巖木小学校のみである。

これまで学校保健の歴史研究及び関連図書の保健室に関する記述は、その多くが杉浦の調査・研究の蓄積である『学校保健百年史』に依拠している¹⁰。今回筆者が参照した菅野誠による『日本の学校建築』（1983、昭和58）¹¹は、その『学校保健百年史』の刊行から10年後であり、菅野の資料は『学校保健百年史』には反映されていないとみてよいだろう。今回学校建築史資料を遡ってみると、教育学での「養護」の出現よりも早い1885年（明治8）に建てられた山梨県の陸沢小学校の平面図に、「養護室」の記載¹²が見られるが、『学校保健百年史』にはその事実の記載はない。

著者である菅野は1936年（昭和14）に文部省の建築課に入省し、それ以後長年にわたり学校建築に専門に携わり、最後昭和41年には同省技術参事官を勤めている。この資料はその菅野が10年あまりをかけ調査し、日本の学校建築歴史をまとめたものである。この資料では明治初年から昭和50年代終わりまでの学校建築が取り上げられ、その概要と、すべての学校ではないものの学校毎の平面図や写真が掲載されている。今回注目した陸沢学校の「養護室」もその中の一つである。

この学校建築史資料によって、新たに保健室の歴史が浮かび上がる可能性があり、特に菅野の資料での「養護室」出現は1875年であり、それが教育学での「養護」の出現より早いことを踏まえ、学校建築史の中で、保健室のルーツを探ってみることにする。

3.2. 小学校建築の歴史にみる保健室および陸沢学校「養護室」

小学校及び幼稚園の建築に限定してみると、菅野の資料では69校（明治7年－昭和42年）が取り上げられている。それらの平面図の掲載の有無と保健室に該当する部屋の名称をまとめたものが、表1である。

陸沢学校は1875年（明治8）に建設された学校で、当時山梨県ではこれ以外にも明治7年から明治18年の間に、12校もの「藤村式」と称せられる洋風建築の小学校が建設された¹³。これらの建物はほぼ正方形の2階建てで、さらにその上に塔屋が設置されている点が共通している。

これらの学校は、時期的にみて1873年（明治6）に出された文部省「小学校建設図」¹⁴を踏まえていると見てよいだろう。この「建設図」ではモデル図面だけでなく、設置すべき部屋の名称と数も示している。そこで示された部屋とは、教室、生徒控所、応接室、書籍室、教員詰所、裁縫室、小使部屋、教員

表1. 小学校幼稚園建築にみる保健室の有無とその名称
菅野・石附*・学校保健百年史の資料から作成

西暦 年号	項目	平面図の有無	保健室の有無とその名称	西暦 年号	項目	平面図の有無	保健室の有無とその名称
1868 明治元年	京都府小学区校舎モデルの図面提示	なし	なし	1899 明治32	栃木栃木第二小学校	あり	なし
1873 明治6	文部省制定小学校建設図	あり	なし	1900 明治33	長崎島原第2小学校	なし	？
1874 明治7	山梨琢美学校/梁木学校			1901 明治34	栃木私立足利幼稚園 大阪市立愛珠幼稚園	あり あり	なし 摂生室 7坪5合
1875 明治8	山梨睦沢学校 長崎県学校建築心得/新潟県小学校建築図(和)	あり なし	養護室 なし	1903 明治36	和歌山那智小学校本館	あり	衛生室 9.4坪
1876 明治9	静岡袋井市見付小学校・防中学校・西之島学校 春米(つきよね)小学校 開智小学校 東京女子師範学校附属幼稚園 福島県金透学校	なし なし あり あり なし	？ なし なし なし なし	1904 明治37	明石女子師範学校附属幼稚園	あり	なし
1879 明治12	長野和(かのお)学校 福井龍翔学校 山梨錦生学校/勝沼学校	あり あり なし	なし なし ？	1905 明治38	岐阜笠松小学校・竹ヶ鼻小学校		治療室
1880 明治13	静岡岩科学校	なし	？	1905 明治38	岩手川口小学校	一部	？
1881 明治14	茨城水海道学校本館	あり	なし	1908 明治41	岡山旭東小学校附属幼稚園/同清輝小学校附属幼稚園 学校保健百年史より佐賀東松浦郡巖木小学校改築 岩手巻堀小学校 岡山遷喬小学校	あり なし あり なし	なし 医務室・養護室 なし なし
1882 明治15	西宮今津小学校本館 愛媛県小学校建築図	あり なし	なし なし	1909 明治42	岐阜京町小学校		医務室
1884 明治17	旧渋沢小学校校舎 新潟明訓校	あり あり	なし なし	1913 大正2	函館遺愛幼稚園 佐賀有田小学校	あり なし	なし ？
1885 明治18	群馬原町小学校本館 長野山辺学校本館	あり あり	衛生室 ？	1914 大正3	岡山井原小学校附設幼稚園	あり	衛生室
1886 明治19	東京女子師範学校附属幼稚園 岡山市都紀尋常小学校 福島尋常中学校	あり なし なし	なし ？ ？	1915 大正4	岡山倉敷小学校附設幼稚園	あり	休養室
1887 明治20	鳥取成徳小学校	なし	？	1919 大正8	香川豊浜尋常高等小学校附設幼稚園	あり	静養室 一教室
1888 明治21	私立兵庫幼稚園 青森黒石小学校 宮城登米小学校 福島二本松小学校 三重蔵持小学校	あり なし あり あり あり	なし ？ ？ ？ ？	1920 大正9	神戸須佐小学校・雲中小学校/荒田小学校/山手小学校/神戸小学校 横浜寿小学校 函館師範学校附属小学校	あり あり あり	なし なし なし
1889 明治22	岡山師範学校附属幼稚園 静岡下田小学校	あり あり	なし なし	1923 大正11	東京高等女子師範が稿附属小学校・幼稚園		衛生室
1894 明治27	青森五戸小学校	あり	なし	1924 大正13	岩手遠野聖光幼稚園 熊本王榮幼稚園 山口滝部尋常小学校本館	あり あり なし	なし 医務室 ？
1895 明治28	岡山環翠尋常小学校附属幼稚園保育場	あり	なし	1932 昭和7	東京高等女子師範学校附属幼稚園	あり	衛生室
1896 明治29	高知山北小学校	なし	？	1938 昭和13	佐賀小城幼稚園 広島高等師範画稿附属小学校 長崎島原第2小学校	あり あり なし	なし なし ？
1898 明治31	宮城一迫小学校 埼玉大宮小学校旧校舎 長野松代学校 愛知新川小学校 鳥取小鴨小学校	なし あり あり あり あり	？ ？ ？ なし なし	1939 昭和14	岡山市立三動幼稚園	あり	休養室
				1940 昭和15	熊本八代市立代陽幼稚園	あり	養護室
				1964 昭和39	岡山大学教育学部附属小学校	なし	？
				1965 昭和40	滋賀大学学芸学部附属幼稚園	あり	保健室
				1967 昭和42	奈良女子大学文学部附属幼稚園	あり	保健室

* 石附実編著(1992), 『近代日本の学校文化誌』(思文閣出版)より

昇降口, 生徒昇降口である。

以下, 菅野が資料中で取り上げた山梨県の小学校学校建築をまとめたものが表2である¹⁵。

表2. 明治初期 藤村式擬洋風建築の学校

西暦 年号	学校名	設計大工
1884 明治7	梁木学校/琢美学校	小宮山弥太郎
1885 明治8	津金学校 日川学校/睦沢学校	小宮山弥太郎 松木輝殷
1886 明治9	祝学校	松木輝殷
1887 明治10	平等学校	松木輝殷
1889 明治12	錦生学校/御代咲学校	松木輝殷
1890 明治13	勝沼学校/葦崎学校/ 千野学校	松木輝殷
1895 明治18	竜王学校	松木輝殷

菅野が睦沢学校平面図に「養護室」と記載したその部屋は, 宿直室と兼用で, 1階玄関入って左で向かい側に職員室がある¹⁶。

今回筆者は, 睦沢学校の資料『重要文化財旧睦沢学校高所(甲府市藤村記念館)移築保存修理工事報告書』(2010, 平成22)¹⁷(以下『報告書』とする)と明治初年の手書きの設定図¹⁸を新たに入手した。

それらを見ると2つの資料ともに, その場所は建築当初は「小使室」となっている。さらに前者の資料ではその後改修され, その部屋の一部には「木炭置」が置かれている。「小使室」が文部省「小学校建設図」の設置すべき部屋としてもあがっていることを踏まえると, 菅野の資料の平面図に示された「養護室」は, 建設当初は「養護室」ではなく, 「小使室」であったと判断したほうがよいであろう。

菅野の資料は、彼がフィールド調査をしながら明治期の学校建築をまとめたものであることから、菅野の記述が単純な誤りではなく、改修されその名称が変化したものを入手したか、または聞き取ったものと筆者は推測する。であれば、一時期であれ「養護室」が存在した可能性はあり、その当時の図面を菅野が入手し掲載した可能性は十分あるとみる。そこで『報告書』の年表を精査すると、この校舎は何回か改築／改修がされたことが記録されており、教室や職員室以外はその時々状況に合わせて改修されていた¹⁹ことが推測される。年表の中に〈1925年(大正14年8月)「校舎北側に小使室建設」〉という一文がある。この事実から、「小使室」移転によって部屋が空き、そこを「養護室」と宿直室として使用されたのではないかと推測しうる。であれば「養護室」は建築当初にはなかったが、1925年「小使室」増築以降に存在した可能性があり、菅野が示した平面図はこのころの図面であるとも解釈できる。

陸沢学校の「養護室」の出現をこのように解釈すれば、教育学での「養護」出現によりも前には、部屋の名称として「養護」は出現していないことになる。よって1908年の巖木小学校に設置された「養護室」が最初とみてよいであろう。

さらに表1から、「養護室」は他の学校にも存在していたことがわかる。それは熊本八代代陽幼稚園で、1940年(昭和15)である。それ以降菅野の資料で取り上げられている学校建築では保健室となっている。以上のことから巖木小学校以外にも、「養護室」という名称で保健室に該当する部屋が設置された学校は複数あると推測できる。

さらに表1には、「摂生室」という名称がある。これは幼稚園に設けられた部屋の名称である。以下この「摂生室」を検討してみる。

3.3. 「摂生室」の存在 ー大阪愛珠幼稚園ー

「摂生室」とは、1901年(明治34)大阪の愛珠幼稚園²⁰に設けられた部屋の名称である。「摂生」は養生などと同様に健康に関わり、古来使用されている言葉であることから、保健室に該当する類似した部屋と推測できる。「摂生室」が設置された経緯を菅野の資料でみると、明治30年6月にそれまであった園舎を新築した際に登場したことがわかる。

菅野によれば²¹、園舎の設計は大阪府技手中村竹松が担当し、幼稚園設計に際しては、慎重を期し優秀な設計を募集し、また彼は文部省建築掛の久留正道技師の指導も仰いだという。また別の資料によれば²²、新園舎の設計には当時主席保母伏見柳²³を中心に基本プランがだされ、保母の意見が反映された

と記録されている。その要望とは、保育上の便益を考慮した造りで、侵入者を未然に防ぐような配置、天井の高さや天窓などである。

さらに摂生室設置の経緯については、菅野は「摂生室(いまの衛生室)をくわえたことは、東京女子師範学校附属幼稚園主事の中村五六氏の注意によるもの」²⁴であると記述している。この菅野の記述は、『愛珠幼稚園沿革史²⁵』(以下『沿革史』とする)から起こしたもので、『沿革史』を見ると、明治33年2月の記録に設計を中村竹松に依頼したことと、その中村竹松の「図案に據る園舎図案中摂生室は東京女子高等師範学校教授中村五六氏の注意に因り之を設く」²⁶と記載されていることから、菅野の記述は間違いのないであろう。

この『沿革史』をみると、この幼稚園の教育内容や方法についても、日頃から東京女子高等師範学校附属幼稚園の歴代の主事の指導を仰ぎ、かつ師範学校の卒業生を主席保母として招請していたことが記されており、両園に強い結びつきがあったと考えてよいだろう。

この中村五六の助言の背景には、何があったのかである。その一つとして考えられるのは、明治30年7月に既に出された「学生生徒身体検査規定」にともない身体検査心得が示されており、その「検査室の設置」の記述である。それは以下のような一文である。

身体検査心得「検査室」の設置：身体検査の用に供せんがため、別に一室を用意することは、好まじきことなり。(中略)平常は医務室として、使用すべき様な構造せは、一挙兩得なるへし。(原文はカナ混じり文)

しかし当時の学生生徒身体検査の対象は、あくまでも学生・生徒であり、小学生や幼稚園の児童や幼児は対象となっていない。であれば「検査室」を幼稚園に設置する必要はなく、その名称も使用できないだろう。にもかかわらず中村五六が子どもの健康管理に関係する保健室に該当する「摂生室」の設置を助言したのはなぜかである。そして愛珠幼稚園の保母もその助言を受け入れたかである。

『沿革史』をみると、当時この幼稚園は「大阪幼稚園の手引」の作成を行政から依頼されている。その手引きの第二条には、天然痘の伝染予防対策の一環として出席停止措置をあげ、それに加えて但し書きに「毎月土曜日に医師を招き在園の幼児を診察せしむ」と記されている。

この条項のもとになったものは、明治13年にすで

に出された愛珠幼稚園の規則である。その第七条に前出の第二条とほぼ同様のことが規定されており、そこでも「毎月3回の医師の診察」の規定がみられる。さらに明治30年11月の記録には、園医として河野医師を委託し、「春秋に幼児の身體を検査し、成績表を其筋に進達す爾後幼児の傷患等は皆園医に診察を託す」と記述されている。

これらの事実から、愛珠幼稚園では明治30年には既に園医による身体検査が定期的に行われており、そのための特別な部屋が新園舎に設置するという中村五六の助言は、現実には即したものであり、保母たちも受け入れたと考えられる。

一方中村五六が当時在職していた東京女子師範学校の附属幼稚園の校舎には、このような部屋はない²⁷。ただし中村五六は保母と母親を対象とした『婦人と子ども』という雑誌に、6編ほど「育児学講義」「育児法叢談」、『育児学』と題し寄稿している²⁸。それらの内容は、すべて幼児の発達や医学的衛生的内容である。この中村から指導を受けた東基吉の『幼稚園保育法』でも、生理学衛生学の知識が「教育学の補助学科」として取り上げられている²⁹。東が中村五六から強い影響を受けたことを考え合わせると、中村五六は幼児教育での幼児の心身発達や健康管理を重要視し、実際の幼稚園教育の場に保健室に該当するような部屋の必要性をとらえていたといえ、それが先の「助言」につながったと筆者は推測する。

このように当時の愛珠幼稚園では、健康管理の上から検査室や治療室そして幼児の傷病時の静養室として、今の「保健室」に該当する特別な部屋を必要とし、それが「摂生室」の設置となったといえよう。

ではその名称を他の学校のように検査室、休養室、診察室とせず、あえて「摂生室」と名付けたかである。

3.4. 摂生室のルーツ

—大学南校・旧第一高等学校の摂生室—

「摂生室」という言葉が学校・教育の場に登場するのは、愛珠幼稚園のそれが初発ではない。現在の東京大学の前身である「大学南校」の寄宿舎に「摂生室」が置かれた事実がある。『東京大学百年史』³⁰によれば、1869年（明治2）に「南校医局掛」として医師二名が配置され、寄宿生の健康管理や傷病の対応にあたったとある。翌年明治3年「大学南校舎則」には、「1、病気の節は医局の診を乞ひ病症に因りては校内病院に於て療養被下候事」と、その掛りの職務が規定されている。この規定から寄宿生で病気の者は「校内病院」で療養するようになっている。そ

の後校内病院は「生徒病舎」と称され、1952年（明治11）これを廃して「摂生室」を設置し、医局員を置いたとなっている。

『東京大学百年史』の編集者の記述に、「南校は法理文系統の諸学校であり、その他医学部系統の諸学校にもこれに類する担当者が存在したと思われるが、固有の名称や機能を持つ者ではなかったため、資料は見出せなかった」と書かれている。また明治10年ごろには、医院に「生徒診察掛」がおかれて、それが明治16年に「寄宿生診察掛」と改称されているとの記載もある。帝国大学時代には、寄宿生の健康管理は医員と舎監でおこなわれ、明治20年には「帝国大学衛生委員」が置かれたと、その後の変遷が書かれている。

この「摂生室」は、第一中学校及び第一高等学校に引き継がれ、医務掛（摂生室医務員）も配置され、その目的は寄宿学生の健康管理であった。さらに東京大学教養学部のHPに掲載されている年表を見ると、1952年（昭和27）の項に「旧第一高等学校摂生室を改組し、教養学部学生保健診療所を設置」と示されている。ということは、「摂生室」という名称は、明治11年からその後74年間にわたって使用されていたのである。

これまで学校保健の歴史で、「摂生室」「摂生室員」に触れた先行研究は、筆者が知る限り存在しない。今回の入手した谷本宗生による資料から、摂生室医務員は傷病者の対応だけでなく、コレラやチフス等の伝染病予防の呼びかけや生活のしかた、さらには身体活動の必要性などの活動を、上部に定期的報告していたことがわかる³¹。また摂生室医務員が博物学の中で衛生に関わり健康法の講義をしていた事実も確認できる³²。これらの資料から、学生の健康管理及び衛生教育に積極的にあたり、その任務を果たしていたといえる。さらに別な資料からは、療養の場として入院加療もできる場としても機能していたこと³³も確認できた。

当時南校に「摂生室」の設置がなされた背景について、谷本は「明治期の学校衛生に詳しい邦人教官の先駆け」である松山誠二の存在があるとみている。谷本宗生によれば³⁴、松山は東京大学予備門教諭として生理学を担当し、1883年（明治16）『学校衛生論』³⁵を著し、その中で、教育現場での教師の果たすべき健康管理や指導のあり方を取り上げている³⁶。谷本によれば松山は当時の学校衛生の第一人者で、この『学校衛生論』では学校の構造から始まり、教室環境、机椅子、発育発達、さらには日課や身体的生活習慣及び衛生に関する項目についてまでを取り上げているという。谷本の指摘をふまえれば、松山

のように学校衛生に強い関心を持った人々の存在が、当時「摂生室」設置を後押ししたとの推測もできよう。

以上のことから、東大の前身である大学南校に始まる「摂生室」は、＜教育の現場＞に置かれ、＜健康管理や応急処置の場＞であり、入院療養の場で、「摂生室」及び＜摂生医務員＞が配置され、健康管理だけでなく衛生にかかわる講義も行い、その対象が＜教育を受ける学生＞であることから、その目的や活動は医務室、衛生室、保健室と類似し、歴史的には今の保健室のルーツととらえることもできよう。さらには「医局掛」「摂生室員」の配置は、学校医制度のルーツともいえるのではないだろうか。もしこのように解釈できれば、日本の学校医制度の起源は、諸外国に先んじていたともいえるだろう。

この項の最後にこの大学南校の摂生室の実態を踏まえ、愛珠幼稚園では「摂生室」と名付けた経緯を探るため、大学南校につながるものを手がかりに、資料をさがしてみた。

そこで当時園舎設計の積極的に参加した文部省技師久米正道の経歴を調べると、彼は工部大学校（現東京工業大学）に学び、その後文部省の技師として入省し、その後第一高等中学校から第五高等中学校までのすべての高等中学校の設計を手がけていたことが明らかになった。前出の資料からもわかるように、旧帝国大学の大学南校に設置された「摂生室」は、第一校中学校旧第一高等学校にも引き続き設置された事実がある。であるならば、第一高等学校の建築に関係した久留は、当然「摂生室」という名称を知り得ていたと推測できる。このことを考え合わせると、衛生室や検査室とも異なる「摂生室」という名称が、この久留から提案された可能性があるのではないだろうか。この点は今後のさらに資料などをあたりたい。

「摂生室」が保健室とのつながりを示すものとして、愛珠幼稚園の「摂生室」のその後を追っていく。今回同園の「摂生室」が保健室へとつながっていく資料を入手できたので、以下それについて検討していく。

3.5. 愛珠幼稚園「摂生室」のその後と「摂生室」の とらえ方

愛珠幼稚園の「摂生室」は、その後「摂養室」という名称となり、戦中は「衛生室」、戦後「保健室」とその名称が変遷していく。

この名称の変遷は、昭和20年頃愛珠幼稚園園長であった中村道子が記した記録から読み取ることがで

きる³⁷。残念ながらこの資料の文中には正確な年月日が明示されておらず、書かれている内容からおおよそ戦時中終戦直後などを推測するにとどまる。

この資料に示された「摂養室」は、『沿革史』にある「摂生室」のことであり、文中での位置関係からその事実が解釈できる。この「摂養」とは、摂生と同義語で使われることから「摂生室」を「摂養室」と呼び変えたものと思われる。ただしいつぐらいから「摂養室」と呼ばれたのかは定かではない。

中村がこの部屋の名称及びこの部屋の改修などについて触れている箇所がある。その一つは、終戦直後進駐軍の兵隊が園に入ってきたときの様子に続いて書かれている記述である。

「この園舎が建設当時に、参考室（図面上は当時「標本室」筆者注）として資料が陳列されていた18坪の室は、今は34畳敷の広間に変わり、4枚のまいら戸を左右に開けると、当時摂養室といていた12畳の座敷と連なって、大広間になり、4枚の障子を開けると、庭が全部目に入って、美しかった」

この「摂養室」という名称は、中村の別な箇所にも登場することから、摂生室から摂養室へとその呼び名が変化したことは確かである。しかもその後「衛生室」と変更してもなお、文中に「摂養室」と書かれていることから、馴染んだ言葉であったといえよう。

一連の連載の中で、この部屋に関する記述はもう一つあり、終戦後雨漏りによる改修に関わって登場する。在籍数の増加にともない教職員が増え、従来の職員室が手狭になったことから、「（摂生室と隣接していた資料室であった）大広間を職員室そして従前の保健室を単独にし、身体検査が一気に出来るようにした。以前ここに置いていた薬品戸棚や押し入れを利用して据えた寝台はそのままにして、養護教員用の事務机を一個入れ足し、全く新設されたようになった」と書いている。「単独にして」という言い方から、保健室は別の場所に移動させたようにも解釈できる。別室に保健室を設置してからは、「（基の）摂養室の畳替えをして」、標本室（資料室）である大広間と一体化して日本間として多目的に使用することにしたことが読み取れる。

この中村の記述から愛珠幼稚園の「摂生室」は、その名称を「摂養室」そして一時期「衛生室」となり、戦後「保健室」となっていく、その場所も最終的に異なる場に移設され、養護教諭が配置される状態になっていったと読み取れる。

以上のことから、これまで学校保健の歴史研究に全く登場してこなかった「摂生室」という存在があったこと、それが幼稚園、大学という教育の場で、学生また幼児など教育を受ける側を対象とした健康管理の機能を有する場であったといえるだろう。このようにとらえれば、この「摂生室」は今日の保健室のルーツとしてとらえることができる。さらに大学に設置された「摂生室」は、その歴史的記録からも明らかなように、現在大学の学生を対象とした保健センターとなっていくことも確認できる。いずれにせよ、「摂生室」という場は医療診療的要素が強い傾向はあるが、子どもの健康管理の場として機能していたといえよう。

4. 「養護室」の存在の背景 —衛生室設置に向けた動きと教育学の「養護」—

1940年（昭和15）に建設された熊本八代市立代陽幼稚園の「養護室」³⁸がある。菅野が示した平面図にそれは見られるものの、菅野はその後の増築の結果とみている。その資料での図面がいつごろのものかを菅野は明記していないが、部屋の呼称は「養護室」である。

建築そのものは昭和15年であることから、かつそれ以降増築された際に設置されたと考えるならば、「養護室」という名称は終戦ごろまでは使われていたと推測できるだろう。ということは「養護室」という名称は、1908年（明治41）巖木小学校設置されて以降、少なくとも30年あまり使われていたといえるだろう。これを踏まえて、再度陸沢学校「養護室」に戻り、菅野の平面図にある「養護室」が存在した背景や「養護室」と名付けた契機を探ってみる。

菅野が入手し掲載した陸沢学校の「養護室」が存在した可能性は十分あると考えられることは先述した。そこには校舎の中にあつた「小使室」を、わざわざ経費をかけてまで校舎の外に増築しなければならなかった理由があつたと思われる。それは、当時文部省学校衛生課が推し進めようとしていた学校診療所の設置にあるのではないかと筆者は考える。そこで学校衛生行政の動きを追ってみる。

当時の学校衛生の行政の動きをみると、1924年（大正13）に文部省学校衛生課は、学校での診療実態の調査の一環として、診療のための部屋を調査している。『学校保健百年史』によれば³⁹、学校での救急処置や疾病対応などの何らかの診療実務を行っている学校は1410校で、校内に診察室（治療室）を設けている学校は585校、教室の一部代用している学校が711校、校医自宅の診察室で実施している学校11校、

となっている。その翌年には、大阪で開催された第4回全国連合学校衛生総会で、「学校内衛生室の設置に関する規定を設けられたし」との建議と希望事項の提案がされ、それを受けて、その翌年1926年（大正15）に再度「学校診療室調査」が実施されている。大正15年昭和元年になされたこの調査の結果、学校診療室の設置は758校で、全体の1/30の設置にすぎなかったものの、「都市における新設小学校では、診療室特設の必要性を感じて模範的医務室」の設置が進む。一方地方では、教室を模様替えして使用する例が大半で、診療に必要な設備器具などは不十分な状況であつたと『学校保健百年史』には述べられている。また中等学校・師範学校では、医務室、寄宿舎内に休養室静養室が設置され、そこでの診療が行われたと記載されている。

さらに昭和2年の調査結果では、学校診療室の設置は小学校817件、昭和5年では小学校1233件、中等学校214件、師範学校35件、全体で1482件、3年あまりの間で約2倍となっている。しかしその多くは校内の教室を利用した医務室や治療室休養室などと称した「特別な室」に過ぎなかったと推測できる。

度重なる調査の実施は、地方の教育行政に携わる者に一定の圧力となつたことは十分に想像できる。であれば一定の設備や広さを満たす学校診療室までは設置できないが、最低限の条件での休養室、医務室や治療室というような特別室を設置せざるを得ない状況が、菅野が示した陸沢学校の平面図の「養護室」の登場につながつたと筆者はとらえている。さらに表1からもわかるように、医務室、静養室、休養室などさまざまな名称がつけられていたおり、「衛生室」という名称での統一化は、1934年（昭和6）小学校令施行細則（「衛生室」の設置）が契機となつたと推測する。それまでの間、先にも述べたように「養護室」という名称は、この三校以外にも存在した可能性は高いと考える。

では陸沢学校は、なぜ医務室や治療室ではなく「養護室」という名称をつけたかである。前述したように文部省学校衛生課による再三の調査実施が、その背景にあつたという前提に立って考察すれば、学校診療室としての設備機材を整備する状況でなかったため、それを学校診療室や医務室と称することははばかられ、それに代わる名称として「養護室」としたのではないだろうか。そして「養護室」のその「養護」は、当時の教育界を席卷していたヘルバルト学派の教育学の三方法「教授・訓練・養護」⁴⁰の一つとしての「養護」にあるのではないかと筆者は考える。教育学上の概念として確立された「養護」を使用す

ることは、学校教育現場においては、馴染みやすくまた教育活動としての「養護」を実現することにつながり説得力がある。これは巖木小学校の「養護室」、さらには熊本八代の代陽幼稚園の図面で確認された昭和15年以降においてもなお「養護室」と称されたことにも関係するであろう。これらの点について、現時点では筆者の推測の域を出ないが、教育学での「養護」概念について取り上げる別稿で、さらに検討を加えたい⁴¹。

以上のことから、菅野の資料に示された陸沢学校の「養護室」は、大正15年以降存在した可能性が高いことがいえ、その設置の背景に当時の学校衛生行政の圧力があつたと筆者は考える。しかも「養護室」という名称は、明治中期以降強い影響をもったヘルバルト教育学の三方法が定着していた当時の教育界であったことなどを踏まえると、その一つである「養護」からその名称を「養護室」と名付けた可能性が高いと推測できよう。

5. まとめ

本研究は、学校建築史の文献で明治8年に建設された小学校図面の「養護室」から、学校建築史の文献をてがかりに、これまでの学校保健の先行研究の知見や今回新たに入手した資料を突き合わせて、保健室のルーツを検討した。

その結果、教育の場で教育を受ける側の健康管理や傷病対応の場として「摂生室」が、明治初頭に大学の前身に、さらに明治後半には幼稚園に設置された事実をつかみ、その目的や機能を検討した結果、保健室のそれと同質であり、またその名称の変遷からも、保健室につながることをとらえた。これらのことから、筆者は「摂生室」及び「摂養室」が保健室のルーツの可能性があると推測する。

さらに学校保健の歴史でこれまで明らかになっている佐賀巖木小学校の「養護室」以外にも、大正15年以降山梨陸沢学校に「養護室」が設置されたことが推測でき、この名称がその後も長く使用されていた可能性を熊本八代代陽幼稚園の資料から確認でき、また「養護室」という名称が当時の教育学の方法に由来する可能性をとらえた。

今後さらに、今回入手した資料の内容や事実を精査検討し、学校衛生及び「養護」概念の検討とあわせ、歴史的検討を重ねたい。

引用および参考文献

- 1 石澤奈保子・清みき・竹下奈穂子・西村郁美・米田有希 (2011), 「学校建築の視点から捉えた保健室－建築士、養護教諭、児童の三者の思いに着目して－」, 2010年度熊本大学養護教諭特別別科卒業研究.
- 2 藤田和也 (1985), 『養護教諭実践論』, 青木書店, pp.56-60.
- 3 文部省 (1973), 『学校保健百年史』, 第一法規出版, pp.166-168.
- 4 文部省 (1973), pp.166-168.
- 5 文部省制定「小学校建設図」(1873, 明治6年)では、保健室の該当する部屋は明記されていない.
- 6 杉浦守邦 (1999), 『養護概説』, 東山書房, pp.68-70.
- 7 杉浦 (1999), p.70.
- 8 杉浦守邦 (1974), 『養護教員の歴史』, 東山書房, p.20-24.
- 9 前出『学校保健百年史』, p.167. その裏付けは残念ながら明記されていない.
- 10 この一例として以下を示す.
江口篤寿 (1982), 「保健室」, 『現代学校保健全集』, 第15巻, ぎょうせい, pp.1-12.
数見隆生 (2001), 「わが国の保健室の歴史的あゆみと教育機能に関する検討」, 日本教育保健年報, 第8号, pp.77-86.
- 11 菅野誠・佐藤誠 (1983), 『日本の学校建築』, 文教ニュース社.
- 12 菅野・佐藤 (1983), pp.216-223.
- 13 明治初年山梨県の権令藤村紫朗は教育の普及に力を入れ、擬洋風建築の学校を建設した。これらの建築様式は「藤村式」と呼ばれ、現在旧陸沢学校は重要文化財建造物に指定され、記念館として移築され保存されている。この建築には、小宮山弥太郎(津金、梁木、琢美の各学校)と松木輝殷(残りすべて)という宮大工が設計、工事の統括を行っている。
・菅野・佐藤 (1983), pp.161-181, pp.194-196.
・植松光宏 (1977), 『山梨の洋風建築』, 甲陽書房。
・上野淳 (2008), 『学校建築ルネッサンス』, 鹿島出版会。
上野は明治日本の学校建築の期限と成り立ちや学校建築の規則の果たす役割についても、取り上げている。
- 14 菅野・佐藤 (1983), pp.153-156.
- 15 植松 (1977)は、27の小学校と師範学校が藤村式建築として紹介しているが、図面はない。
- 16 菅野・佐藤 (1983), p.217.
- 17 公益法人文化財建造物保存技術協会編 (2010, 平成22), 『重要文化財旧陸沢学校高所(甲府市藤村記念館)移築保存修理工事報告書』, 甲府市。
- 18 「陸沢学校見取図(藤村式)明治初年」と記載されており、校地全体の配置、隣接する船形神社、植えられている樹木の種類などが示されている。これは甲府市教育委員

- 会からいただいた。
- 19 例えば明治中期の配置図では、2階は役場と記載されている。
- 20 愛珠幼稚園の建物は、現存する日本最古の幼稚園舎で重要文化財建造物に指定されている。
- 21 菅野・佐藤（1983），pp.508-520.
- 22 建築関係者のWebサイトでは、設計者として建築技師中村竹松や久留正道とならんで伏見柳（保母）があげられている。
以下のサイトを参照されたい。
<http://gipsypapa.exblog.jp/15793859/>
www.city.osaka.lg.jp
<http://www.kenzai.or.jp/tanbou/214.html>
- 23 伏見柳は東京高等女子師範学校を卒業し、明治9年から明治35年4月まで、愛珠湯地園で主席保母を務めた。
- 24 菅野（1983），p.509.
- 25 『大阪府愛珠幼稚園沿革史』，近代デジタルライブラリー。
- 26 愛珠幼稚園沿革史，pp.18-19.
- 27 しかし関東大震災後の移転による幼稚園校舎の新築1932年（昭和7年）の折には、幼稚園としてはいち早く「衛生室」を設置している。東京高等女子師範附属幼稚園には、1923年（大正11）に、日本赤十字から2名の看護婦を派遣され、幼稚園と小学校に勤務した事実がある。その時小学校には医務室が設置されている。
- 28 中村五六（1901.1-1901.7.），『婦人と子ども』，フレーベル舎。
※ただし1901.6が欠落。
- 29 白石崇人（2010），「明治後期の保育者論－東京女子高等師範学校附属幼稚園の理論的系譜を事例として－」，『鳥取短期大学研究紀要』，第61号，pp.1-10.
- 30 東京大学百年史編輯委員会（1984），『東京大学百年史通史1』，第一法規出版，pp.623-628.
- 31 摂生室員の活動について、谷本宗生は「1880年代教育史研究会」のニューズレターの第36号（2012.1），第40号（2013.1）第41号（2013.4）第42号（2013.7）で、取り上げている。
- 32 谷本（2013.4），「健康法。冷水養生法の提唱」，pp.5-6.
- 33 明治40年に実際に摂生室で療養している息子野村胡堂に宛てた父からの手紙に、摂生室が確認できる。なお胡堂は、小説家で音楽評論家であり、「銭形平次捕物帖」の作者である。<http://www.morioka-times.com/news/2009/0904/05/09040502.htm>
- 34 谷本宗生（2013.1），「教育家は学生の健康・衛生に刮目せよ！（松山誠二の提唱）」，「1880年代教育史研究会」のニューズレター，Vol.40，pp.7-8.
- 35 松山誠二（1883），『学校衛生論』，国立国会図書館所蔵。三島通良が東大の前身である医科大学に学んでいることから、松山の著書や講義と接点があると推測できる。
- 36 この著書は三島通良が『学校衛生』（1889年，明治22）を出版するよりも、6年も前のことである。この松山の著書に関しても、これまでの学校保健の歴史研究の中では全くふれられていない。今後これについては、別稿で検討する予定である。
- 37 中村道子は、月刊誌『幼児の教育』（1967.10.1-1972.8.1.）に「愛珠 思い出ずるままに」と題して当時の様子を16回連載している。
お茶の水女子大学 教育・研究成果コレクションTea Pot参照。
- 38 菅野・佐藤（1983），pp.861-862.
- 39 『学校保健百年史』，pp.168-169.
- 40 当時秘匿教育界を席卷していたヘルバルト学派の教育学では、教育の方法として、「教授・訓練・養護」を挙げていた。これについては、藤田和也（1985）を参照されたい。
- 41 養護概念については、日本教育保健学会年報第21号（2014.3）に投稿予定。
「明治期大正期の教育学にみる『養護』概念の再考」